

SSKW

海から海へ

No. 32 2012. 9. 24 【編集人】

特定非営利活動法人 海から海へ

〒182-0024 東京都調布市布田 1-32-5

マートルコート調布 407

Tel 042-441-2958 Fax 042-497-4878

<http://umi.or.jp> office@umi.or.jp



風に揺れて縞すすき Zebra Grass Swaying in the Wind 910x727 2009 © Mizuki Tanaka

海から海へは、障がいをもつ人から渡される豊富なものの存在に気づき、人々と共有するため、障がいをもつ人を中心とした、文化芸術活動、研究活動、社会教育活動、心理カウンセリングなどの支援活動を行うこと、および、それらの活動を通し、障がいの有無にかかわらず、地域・国内・国外を問わず広く交流を深め、人々がより良く生きること貢献することを目的として活動しています。

田中瑞木展第 17 回個展

そのままでいいんだよ

みーちゃんの展覧会

2012 年 10 月 16 日(火)～11 月 4 日(日)

Com. Cafe 音倉

この度、第 17 回田中瑞木展を開催する運びとなりました。
皆様万障お繰り合わせの上、ぜひおいで下さい。

開催の経緯

海から海へは、2004 年 11 月、庄野真代さんと浜田山-ずをお招きし、チャリティコンサートを開きました。場所は電気通信大学講堂。400 人を超える聴衆が魅了されたステージの記憶が今もよみがえってきます。このイベントは、地元調布田中和己さん・玲子さんご夫妻とお兄様の浜田山-ずメンバー田中章さん(ギタリスト)による企画協力があって、実現いたしました。

今春、庄野さんからお誘いがあり、庄野さん代表の NPO 法人「国境なき楽団」が運営する Com. Cafe 音倉で、10 月 16 日(火)から 11 月 4 日(日)の 3 週間、田中瑞木の絵が展示されることになりました。作品は約 20 点の予定です。

庄野真代さんのこと



「飛んでイスタンブール」で知られる庄野さんは、シンガーソングライターとして 36 年間活動してこられました。その間、世界一周の旅をきっかけに環境問題に興味を持たれ、英国留学でボランティア活動をされたあと、早大大学院で「フィリピンのストリートチルドレンの音楽を通したエンパワーメント」という修士論文を書かれました。2006 年には、「支え合う社会を奏でたい」というコンセプトの基、国境なき楽団を設立されました。

Com. Cafe 音倉とは

国境なき楽団は、音楽・アート・体に優しい食を通して、人々が集い、つながる場として、ComCafe 音倉を運営しています。場所は、京王井の頭線・小田急線 下北沢駅から徒歩 3 分の便利なところにあります。この機会にランチで、またはお茶や夕食を召し上がりながら、田中瑞木の絵をご鑑賞ください。
カフェタイム 12:00～15:30
ライブタイム 18:30～22:00 月曜定休

会期中のイベント

10 月 19 日(金)開演 19:30

前納依里子ダンスパフォーマンス

いつもの世界が違って見えるはず

Mizuki Tanaka's World

前納さんは、お茶の水大学在学中、現代舞踊に出会い、以来多くの優れたパフォーマンスを発表。他分野のアーティストとのコラボレーションも積極的に行っています。田中瑞木の作品とのコラボレーションをどうぞご覧ください。

10 月 27 日(土)開宴 19:00

みーちゃんの展覧会 記念夕食会

ゲストに庄野真代さん、山西優二さん(早大教授、専門は、個人の成長と社会の発展を目指す開発教育)、前納弘武さん[予定](大妻女子大教授、専門は現代社会におけるメディアとコミュニケーション)、前納寛乃さん(国分寺で「中学生の広場」主宰)をお招きし、体に優しい食事をいただきながら、田中瑞木の絵を核とした楽しいひと時を過ごしていただければ幸いです。ぜひご参加いただけますよう。

イベント参加は予約制です。お申し込みは office@umi.or.jp または 090-8588-2398 にお願ひします。展覧会とイベントの詳細は 3～5 ページをご覧ください。

Com. Cafe 音倉では「体にやさしい食」をキーワードに、農家から分けていただく有機野菜を中心とした手作り料理をお出ししています。新鮮な健康野菜ひとつひとつの個性を味わってください。そして音楽にのせて体の隅々まで栄養を届けてください。お飲み物も、有機ワイン、ビール、サワー、カクテルなど各種取り揃えました。



今後の庄野さんのスケジュール

2012. 11. 30

東京・下北沢「真代と燗酒でとっぷり！秋のゆうべ」

2012. 10. 19

愛知・春日井市「春日井まつり前夜祭 ポップスに恋して」
(音倉ホームページ <http://www.otokura.jp/>)

そのままでもいいんだよ みーちゃんの展覧会

山中瑞木

2012 年 10 月 16 日(火)~11 月 4 日(日)



©山中瑞木

記念夕食会

2012 年 10 月 27 日(土)

みーちゃんの展覧会

10 月 16 日(火)~11 月 4 日(日) 月曜定休
カフェタイム 12:00~15:30
ライブタイム 18:30~22:00
上記時間でご覧になれます

記念夕食会 開場 18:30 開宴 19:00

料金 食事代 2500 円(ワンドリンク込) 要予約
予約申込 office@umi.or.jp または 090-8588-2398
定員 40 人 先着順

Com.Cafe 音倉 世田谷区北沢 2-26-23 ELNIU ビル B1
京王井の頭線・小田急線 下北沢駅 北口・西口 1 より徒歩 3 分
03-6751-1311 info@otokura.jp <http://www.otokura.jp/>
NPO 法人海から海へ <http://umi.or.jp>



いつもの世界が、ちょっと違って見えるはず

MIZUKI TANAKA'S WORLD

Presented by **Yoriko Maeno**



©Mizuki Tanaka

障害をかかえながらも、画家として才能を発揮し、活躍する田中瑞木。
明るい色調と天性の構成力で表現される彼女の世界を、確かなテクニックと独特の世界観に定評のあるダンサー、前納依里子がダンス、歌、朗読などを織り交ぜ再構築。一味違った田中瑞木の世界を体感できるライブパフォーマンスをお届けします。

総合演出・構成：前納依里子
ダンス：小山衣美、松尾望、吉村摩耶、前納依里子
音楽：西川裕一(Sylian Rue)
歌：香蓮(シンガーソングライター) 他



前納依里子
大学舞踊科在学中、コンテンポラリーダンスに出会う。加賀谷香、二見一幸らに師事。2008年より、作品創作、パフォーマンスを行い、全国6都市で作品を発表。ダンス映画への出演や、他ジャンルのアーティストとのコラボレーション、演劇作品への参加等、活動の幅を広げている。2008年秋田全国舞踊コンクールにてあきたこまち賞受賞。お茶の水女子大学大学院修士課程修了。

前納依里子「メモリの童話集」
<http://www.memori-tales.com/>

日時：2012年10月19日(金) OPEN19:00 / START19:30
チケット(one drink込)：前売り2500円当日3000円
予約：前納info@memori-tales.com 海から海へ090-8588-2398 office@umi.or.jp 音倉info@otokura.jp
場所：Com.Cafe音倉 (小田急線・京王井の頭線 下北沢駅徒歩3分) Tel：03-6751-1311



企画制作：NPO法人海から海へ <http://umi.or.jp>

画家

田中瑞木 Mizuki Tanaka



1973年生まれ。生後1年ほどで障がいが見られる。1985年から母親の勧めで絵画教室に通い始め、その天性の構成力と明るい色調、力強さで、全国学校秀作美術展、障害者総合美術展などで多くの賞を受賞。2001年NHK第2回世界ハート展に50人の作画者の一人に選ばれる。また、作品が小学校図画工作の教科書に掲載される。個展開催多数。2007年田中瑞木美術館オープン。

朗読

中村明日香 ASUKA NAKAMURA



玉川大学文学部芸術学科卒業。在学中よりバレエ、ジャズ、コンテンポラリー、フラメンコ、日舞など幅広いダンスから歌や演技も学び、表現ジャンルにこだわらず舞台を中心に幅広く活動中。

ダンサー

小山衣美 EMI OYAMA



広島県出身。18歳で上京し、コンテンポラリーダンス、クラシックバレエを始める。様々な振付家の作品に出演、現在はダンスカンパニー・ニブロールで、メインダンサーとして活動中。

松尾望 NOZOMI MATSUO



9歳よりクラシックバレエを始める。18歳で上京後、ジャズダンス、モダンダンスを始め、20歳よりコンテンポラリーダンスを加賀谷香、柳本雅寛に師事。2005～2010年Dance-SHAN companyに所属。数々の振付家の作品、クラブハウスでのパフォーマンスなど、幅広く活動している。

吉村摩耶 MAYA YOSHIMURA



静岡県出身。6歳から踊りを始める。舞台芸術学院ミュージカル科本科卒業。コンテンポラリーダンスを加賀谷香に師事。心と身体に嘘のない表現を目指し、日々精進中。シルクドウソレイユ登録アーティスト。

歌

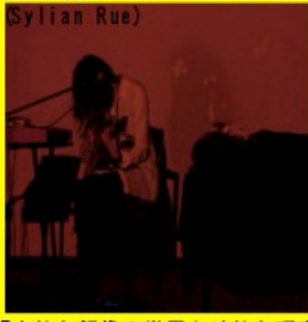
香蓮 KAREN



幼少期をアフリカで過ごす。高校卒業後イルカの調教師を目指し、オーストラリアへ。短大卒業後、音楽の道を決意し上京。現在3枚のアルバム、1枚のシングルを出し、都内だけではなく、地方も飛び回ってライブ活動中。ラジオのパーソナリティの他、NPO法人日本移植支援協会、東日本大震災復興支援 Resmile project 等への音楽での応援活動を積極的に行っている。

音楽

西川裕一 YUICHI NISHIKAWA



『内的な想像の世界と外的な現実の世界との間に橋を渡す』というコンセプトのもと音楽でプリミティブな世界観を作り出す、西川裕一によるソロプロジェクト。『人間ならびに物事の本質や根源的なものについて』『自身と、他者や社会との関係性について』娯楽ではない、思考を促すことを標榜する音楽。作風はロックからサイケデリック、ミニマル、アンビエントなど多岐に渡る。映画や小説などにも通ずる物語性を持つ楽曲が多い。
<http://www.sylvianrue.com>

ハーモニカ

今泉裕 YUTAKA IMAIZUMI



1978年、Jazz Club新宿ピットインにて自己のJazz Bandセッション等で活動開始。1990年にリーダーアルバム『象(きさ)の小川』を発表する。その後様々な音楽シーンに参加。現在、ピアノ西尾賢、ベース山崎弘一、7弦ギターオオタマル、パーカッション藤の木みかで、Band『ME WE』を結成、ブラジル音楽を中心に活動中。Hot Music Schoolにて講師も勤める。

宣伝美術：前納有紀子

第 16 回 田中瑞木展が終了しました

2012 年 9 月 8 日(土)・9 日(日)
日本描画テスト・描画療学会第 22 回大会
(日本大学文理学部) 併設展覧会

日本大学文理学部で開催された日本描画テスト・描画療学会第 22 回大会(大会委員長横田正夫日本大学教授)に田中瑞木の作品が招待展示されました。

大会には、北海道から沖縄まで、約 400 人の学会員が参加され、学者・医者・福祉心理医療従事者・アーティストなど、多くの方が展覧会に足を運ばれました。



ご覧になった方は、絵がもつ根源的な力に深くこころを動かされたご様子。多くの方が、画家や本法人スタッフにお話しされ、感動の余り涙ぐむ方もいらっしゃいました。



また、9 月 9 日に開催された大会シンポジウム「描画の源流に立ち返る」に本法人副理事長阿部愛子が招かれました。「しょうがいのある人と描画-Mさんのケースから」というタイトルで発表を行い、質疑討論を行いました。発表抄録を転載します。



しょうがいのある人と描画-Mさんのケースから

阿部愛子(特定非営利活動法人海から海へ)

はじめに

今日、しょうがいをもちながらアートに関心を示し、作品を制作している方々の活躍を眼にする機会が増えている。脳器質しょうがいを負ったMさんのケースを取り上げ、28年間の描画活動と作品から、「描くことの意味、描画の根源的な力」について考察をしてみる。

1. 生育歴(省略)
2. 発達と描画
 - ① なぐり描き——描画行動は4歳の幼稚園でのお絵かきの時間から始まる。対象弁別はできてない。図1-A
 - ② 対象描写——小学校時代(8歳)の描画。対象を描写するようになる。図1-B
 - ③ 描画と遊び——言語学習のため保護者が絵を描く様子を見て、自発的に絵を描き、遊びへと発展する。
 - ④ 油絵との出会い——絵画教室に小学校6年生より18歳まで通う。作品数は72点。美術館や個展で公開。
3. 描画からの考察
 - (1) 初めての油絵作品——非言語性コミュニケーションとしての描画
 - (2) 描画の特徴——構図、色、対象の生命感、未熟性と純粋性、完成度 図1-C
 - (3) 描画とところ——自我とコミュニケーション(正面性、ペア、並列描写、対象希求) 図1-D
 - (4) 観る者が受け取るもの——ところ(無意識の表出)の部分の察することの重要性
 - (5) 描くこと——表現することの喜び(表現者としての人間)、ところとカタチ(発達と表現)

引用文献

阿部愛子 2009 みずきのびじゅつかん汐文社

田中(阿部)愛子 1998 絵はコミュニケーション燦葉出版社



画家の近況

今夏は猛暑。ことのほか暑さがこたえた気がします。画家も例外ではありませんでした。

画家は 7 月下旬に体調不良となりました。仕事場から連絡を受け、すぐさま車で駆けつけました。まっすぐ歩けない体を支えながら、近所の内科の主治医 菅間裕先生へと急ぎました。症状から熱中症ではないかと点滴を受けましたが、すぐには回復に向かわず、自宅へと戻りました。足元がおぼつかないにもかかわらず早く早くとあせるまま、必死で自室のベッドに倒れこむ姿から、早く家に帰りたかったという思いが伝わってきました。

苦しさでさえ、ことばに表現することが難しいのですね。眉間に皺を寄せて苦しさや気持ち悪さを表現している姿から、どれほどの気持ちを受け取れたかわかりません。傍にいても、もどかしさでいっぱいになります。2 時間ほどして、いつものようになって、おかゆもおいしそうに食べます。食欲がバロメーターです。笑顔も出てきました。安心する気持ちにこちらもなついていきます。しばらく仕事を休み、休養することになりました。

休養していても、家の掃除は気になるようです。掃除機を出し、猫が爪とぎをした後のくずを吸い取っています。炊飯器の予約ができていないと、ご飯が食べられるかどうか気になるようです。お米を 2 カップ研いでくれます。洗濯物は乾けばきちんと畳み、不足の豆乳などはスーパーへ買い物にいきます。そうやって元気であるのが当たり前と、思っていましたけれど、そうじゃないときもあることを知り、考えます。

親が 60 歳くらいになると、知的な障害のある子どもは 40 歳前後になって、少しぼーとしてきた親に子どもが合わせるような感じでよい関係になりますと、以前読んだ本に書いてありました。そのことを忘れずにいて楽しみにする気分でした。しかし、その齢に達し、子どもの健康に心配が生じる現在、最悪の事態もありうると想像し、ぎょっとなる自分がいます。生きている時間を意識する夏の出来事でした。

回復後、夏旅に出ました。1 泊目は妙高高原。涼やかな風に吹かれ、温泉で疲れを癒します。雨上がりの妙高山が間近に見えます。ここではじめて饗されたとうもろこし御飯は今や我が家の夏の定番メニューのひとつです。お米の白色にもろこしの黄色が夏の太陽を感じさせます。甘いもろこしが、しゃきしゃきとした歯ざわりと共に、夏ならではの味を楽しませてくれます。お米に混ぜた少々の塩が隠し味となります。ぜひ、お試しあれ。

翌日は、墓参の後、岐阜へ。高山は、21 年前画家が特

別支援学校の 3 年生の修学旅行で来た場所です。古い町並みを見ながら、みたらし団子をほおばり、朴葉味噌をお土産に求め、一路その日の宿を目指すという強行軍でした。道中、濃い青空に濃い緑色の山々が迫力です。ここはまさしく本州の中央の位置。豊かな自然が目に見えます。飛騨川に沿う道路は清流が着かず離れず見え、ここに生息する川魚のおいしさを想像させます。周りの土地にはトマトと飛騨牛の生産地、栗林とそのお菓子など、豊かな人々の営みがあることを知りました。途中、熊谷守一の美術館がありました。ここを出て豊島区に住んだ熊谷の原点を偶然発見し、来年再訪の予定が決まりました。

下呂温泉は名古屋の奥座敷だとか。湯質も最高で、トチの実を使ったお菓子などおいしいものがたくさんありました。翌日は中津川経由で帰路に着きました。日本で一番熱いところとニュースで伝えている通り、真夏の日差しに照らされ気温はどんどん上がります。からっと晴れた空から容赦ない光のシャワーです。栗ソフトクリームを食べずにいられません。

このように、大事にしているものをそれぞれが守り育てていると知り、普段目にしない景色を眺め、自然の恵みをいただけてきました。改めて家族そろって同じ時間に身を置く大切さを感じます。近場であっても遠くでもそういう気持ちで新しい体験をすることが家族の世界も豊かにしてくれるように思います。

8 月のある日、ぶどう狩を経験しました。場所は山梨県笛吹市一宮町の桃とぶどうの生産・流通の専門家古屋章三さんの畑です。古屋さんとは偶然出会いました。それ以来、毎年、桃とぶどうを分けていただく関係です。画家は黙っているだけで、画家の表情から察し、気持ちを汲み取り、対応する古屋さん。画家に寄り添う姿を感じることができ、いつも感心させられます。古屋さんは桃やぶどうと話し、桃やぶどうの喜びや苦しさもきくと受け止められているのですね。おいしい果実がそれを証明してくれています。「本物のおいしさ」は人にも実にもあると教えられたと思います。(阿部愛子)



真剣にぶどう狩りをする画家と古屋さん

美術館だより

秋風が感じられるこのごろ、美術館では展示替えが行われました。今回は、10 月 16 日～11 月 4 日までの個展開催の都合で、スケッチ主体の展示になっています。いつもと違う雰囲気をお楽しみください。皆様のお越しをお待ちしています。毎週日曜午後 1～5 時 開館します。

展示作品

スケッチ：八ヶ岳のキャンプファイアーのスケッチ、カラーのささやきのスケッチ、秋のサファリパークのスケッチ、ブランコのスケッチ

油絵：ともだち、馬の家族、泰三さんと絃子ちゃん、ノンちゃんとブルちゃん、画室のわたし、バーベキュー、もみじ山のねこ、おひめさま、私の好きなもの

色鉛筆：マーマレードを作るよ

「ノンちゃんとブルちゃん」

ノンちゃんは猫。ブルちゃんは犬。どちらも瑞木の家で飼っていました。

ブルちゃんは西東京の獣医さんからきたボクサー種。泥棒に入られたと



きに、警察の人が犬をまた飼うようにとの助言があったのでした。人なつっこくて、甘えん坊。首をかしげて見上げるしぐさでまわりの人を引きつけました。2 年後、ガンにかかって死んでしまいました。

ノンちゃんは弟が通う英語教室の先生の家で生まれました。先生は大の猫好き。猫好きは猫好きが嗅ぎ分けられるようです。ある日、お姉さんに猫をもらってほしいと、画家の弟が伝言をお願いされました。

その後、体に斑点模様があるドットちゃんという名前の妹猫も家にきましたが、2 匹とも死んでしまいました。

これは、ピンクレディの T シャツを着たブルちゃんと茶色のワンピース姿のノンちゃんが天国で仲良くしていると知らせてくれる絵です。

「私は忘れないよ」と瑞木が心をこめて描いた絵です。

新しい美術館グッズができました

新しいクリアファイルと絵はがきが出来上がりました。

ファイルは A4 サイズで、秋のサファリパークと白い花瓶のトウガラシの 2 種類。ねこの原っぱと窓辺のゆりと共

に愛されるグッズになりますように。

絵はがきは以下の 9 種類です。チューリップがいいね、風に揺れて縞ススキ、自転車に乗ったねこ、カラーのささやき、クリスマスを待っている、白い花瓶のトウガラシ、窓辺のゆり、きものを着た由紀ちゃん、泰三さんと絃子ちゃん、雨の日のママ。

先般、開催された「描画テスト・描画療学会」で、とりわけ人気が高かったのは、花火とねこの原っぱという作品でした。絵はがきもファイルも絵本までも、持参した部数は完売。多くの方々が花火を長い時間食い入るように鑑賞され、ねこの原っぱのかわいらしさにひきつけられていました。

全国から参加された大勢の描画を研究・学んでいる方々のお手元で、瑞木の作品が何かを伝え何かを語りかけていることと想像いたします。いつか、さまざまな方のさまざまな場所で、本物を観ていただく機会が来ることを願っています！

編集後記

妻の誕生日にカレーライス、野菜ジュース、メロンのバースデーケーキを作った。氷で冷やしながら生クリームを泡立て、スポンジケーキに塗り、メロンを薄く切って並べ、同じものを 2 枚作って重ねる。野菜ジュースは、人参とゴーヤとトマト。人参の搾りかすは、カレーにも使う。これは一例だが、今年の夏休みは、料理をする機会が増えた。難しいのは、同時にいくつものことが並行に進むこと。熱いものは熱く、冷たいものは冷たいまま食卓に並べるといのは至難の業だ。火加減、味付け、タイミング…。しかし、下手な料理を褒めてくれ、おいしいと言って食べてもらえる人がいるのは嬉しい。お料理好きの学生 A 君とも話しが合う。「君が来年卒業研究に着手できたら妻が我が家に招待すると言ってるよ」と話す。料理の本物のおいしさを A 君に味わってもらうのを楽しみにしている。(輝)

特定非営利活動法人 海から海へ

<http://umi.or.jp> office@umi.or.jp

振込口座 ゆうちょ振替：00110-0-684539

みずほ銀行 調布支店 普通預金 8082621

2012 年 9 月 24 日 海から海へ No. 32

編集責任者 阿部公輝

〒182-0024 東京都調布市布田 1-32-5

マートルコート調布 407

Tel 042-441-2958 Fax 042-497-4878

発行所 〒157-0073 東京都世田谷区砧 6-26-21

特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会

定価 200 円